さいたま市公民館運営審議会第４回会議　議事録

１　開催日時

令和４年７月２６日（火）　午前１０時００分から午前１１時３０分まで

２　開催場所

生涯学習総合センター　１０階　多目的ホール

３　出席者

〈委員：１１名〉

① 山中　冴子　委員長
② 加藤　美幸　副委員長
③ 石田　玲子　委員
④ 植杉　嘉明　委員
⑤ 大塚　晶子　委員
⑥ 栗原　保　　委員
⑦ 小林　玲子　委員
⑧ 島田　正次　委員
⑨ 白石　徳一郎委員
⑩ 丹　能成　　委員
⑪ 寺田　道子　委員

〈拠点公民館職員：７名〉

① 西区　　指扇公民館長　　内ケ島　直哉
② 北区　　大砂土公民館長　岩井　由起子
③ 大宮区　桜木公民館長　　大嶋　真浪
④ 見沼区　大砂土東公民館長　青木　文彦
⑤ 桜区　　田島公民館長　　掛川　雅世
⑥ 浦和区　岸公民館長　　　星野　務
⑦ 緑区　　大古里公民館長　春日　徹也

〈事務局：７名〉

生涯学習総合センター

① 館長　中村　幸司
② 参事兼副館長　中村　和哉
③ 主幹兼事業・企画係長　野口　みずほ
④ 事業・企画係主査　曽根　啓佑
⑤ 事業・企画係主事　藤田　雄一郎
⑥ 事業・企画係社会教育指導員　松本　みはる
⑦ 事業・企画係社会教育指導員　伊藤　智子

4　欠席者名

〈委員：１名〉

①　加藤　恒　委員

〈拠点公民館長：３名〉

①　井出　浩史　②　石関　達　③　遠藤　明彦

5　議題等

・前回会議録について

・ＩＣＴ講座の実例紹介

・ＩＴリテラシーについて

・情報通信白書からみるＤＸ化について

・令和４年度市民大学で実施しているオンラインの取組について

6　配布資料

（１）さいたま市公民館運営審議会第４回会議次第

（２）さいたま市公民館運営審議会第４回会議名簿

（３）さいたま市公民館運営審議会第４回会議席次表

（４）さいたま市公民館運営審議会第３回会議議事録

（５）ＩＴリテラシーについて

（６）情報通信白書からみる DX 化について

7　公開・非公開の別

公開

8　傍聴者の数

０名

9　会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10　審議内容

冒頭、委員の変更により植杉嘉明委員、白石徳一郎委員の委嘱を行った。引き続き、事務局より前回会議録について説明を行った。

・「ＩＣＴ講座の実例紹介」の説明を小林委員が行った。

加藤（美）副委員長	高齢者でもスモールステップでよく学べる講座ではないかと思う。 このような講座の需要があることは分かった。定員や応募状況の現状を知りたい。
小林委員	講座担当者から聞いたところ、鈴谷公民館での講座では定員が、16 名ほどに対し倍ぐらいの応募があった。
桜木公民館 大嶋館長	桜木公民館のスマホ講座は、10 名から 15 名ぐらいの募集に対し、2 倍以上の応募があり、毎回抽選を行っている。
山中委員長	今年度はライン以外で、スマホ講座の実施はあるのか。 またこれから募集を開始する講座もあると思うが、定員をいつも超えての応募があるのか。
事務局	ラインやスマホ講座ではないが、さいたま市民大学で行っているパソコンの初心者向け講座では定員 10 人に対し、10 倍の申込みがあった。他にも Zoom 等のツールの使い方講座についても定員 10 人に対し、7 倍以上の応募をいただいた。
山中委員長	ICT に関連する講座は人気があるということがわかった。またこの分野に対して市民ニーズが多くあることが、前回の会議のときよりも、共有できるようになったと思う。
大塚委員	私自身も公民館で科学実験の講座を行っている。参加者が多い場合には助手を頼んでいるが、今回のようなスマホ講座時には、講師 1 人なのか、どのぐらいの人数が助手としていらしているのか。
小林委員	非常に大切なところで、スマホ講座の場合は参加者が使用している端末は、それぞれ異なるためそれなりに知識がないと対応できない。特にシニアのスマホ講座は 3 名体制で行っている。15、6 名の講座参加者に対して、メイン講師 1 人と、サブ講師 2 名という形で実施している。
大塚委員	講師やアシスタントをやってくださる方を確保することは、講座を実行していくために重要なポイントかと思う。
山中委員長	前回の会議で、地域ＩＣＴリーダーの話が出たが、そこととの連携がどうなっているのかが気になる。

小林委員	さいたま市の地域ＩＣＴリーダーの取組は非常にすばらしいと思うが、地域ＩＣＴリーダーのスキルには人によって差があると思う。教える側の中には素晴らしい方もいらっしゃるが、強い口調で教える方もいて、特に女性の受講者の中には、講師に萎縮してしまい学ぶことを諦めてしまうこともあったと聞く。改善点として、考えていただけるとうれしい。
山中委員長	前回の会議でデジタル改革推進部、原口主査に説明してもらったＩＣＴリーダー養成講座の内容に、講師の専門性をプラスしていければいいのではないか。
白石委員	非常に勉強になった。高齢者だけでなく、全世代に向けた講座だと非常にありがたい。地域ＩＣＴリーダーの話もあるが、例えば、小林委員が使われた資料を誰でも使えるようにし、公民館職員がスマホ講座を行えば、応募が 10 倍であっても対応ができるのではないか。また地域ＩＣＴリーダーがこの講座を受講し、同様な指導ができれば良いのではないかと思うが、著作権などが関係してしまうのか。e 公民館の動画としてこの講座を一般公開することは可能なのかを教えていただきたい。
小林委員	e 公民館はさいたま市が運営しているＹｏｕＴｕｂｅのアカウントだが、私の理解だと講座が投稿されているのではなく、色々な活動が投稿され、講座自体を学べるというよりも、紹介なのかと思う。もう一つの問題は、私にとっても非常に大きな問題で、実は先ほどお見せしたテキストの作成には講座の何倍も時間がかかる。無償でとは言いづらい。この問題はＩＴ関連の講座だけではなく、他の講座を行っている先生方にも関わってくる問題になる。さいたま市が 1 回の講座で 1 冊ずつテキストを作るというのは現実的ではない。理想としては、いつも来て受講してくださる方が指導者となり、住んでいる地域で広めてくれるといいのではないかと考えている。
白石委員	無償でなくても、さいたま市教育委員会によって小林委員の作成された読み原稿の付いたパワーポイント資料を買い取らせていただければ、同じ講座を同じ資料を使って ICT リーダーや公民館職員が広く市民の方に提供できるのではないか。または、あらかじめ購入するという前提で、講座用のパワーポイント資料の作成を依頼することはできないか。
小林委員	その場合、ＩＣＴ関連の講座で問題になってくるのがバージョンアップである。他にもスマホ講座では対象となるスマホの種類が多数あり、テキストに載せようにもそれぞれ使用しているスマホの画面が違うため、そういった問題をどう解消していくかを考えていかなければならない。
山中委員長	次回の会議でＩＣＴ関連の講座のニーズに関する上半期のアンケート結果報

	告がある。市民のニーズはこの結果をもとに知ることができる。全館で、どの程度ＩＣＴ講座を実施するか。どの館もやるべき内容なのかを精査することは、おそらく市民ニーズと関係するのではないかと思う。前回も話題になったe公民館は各館の紹介や動画を見て学ぶ講座など、色々なスタイルがある。今日小林委員が説明してくれたような対面の講座では、動画配信だと理解しにくいものもありｅ公民館では賄いきれない。オンデマンドで完結できるものとできないものを検討していくことは重要だと思う。講師の方に常にボランティアでお願いできるわけではない。実際、今日の講座に対し資料作成は3倍の時間がかかっていることが分かった。そういうところもＤＸ化ということを意識し環境を整えていくことが大きな課題ではないかと思う。

・事務局よりＩＴリテラシーについての説明を行った。

山中委員長	ＩＣＴの取組の方向性と公民館としてどう考えているか、参考になった。特に高齢者のITリテラシーと情報通信機器の利用が進んでないこととの関係については違和感がある。若者のなかでもITリテラシーが十分でないケースもあるのではないか。
事務局	こちらの項目は、次の議題にて紹介する。

・事務局より情報通信白書からみるＤＸ化についての説明を行った。

石田委員	自分の子供たちにスマホの使い方について聞くと、自分で検索するように言われることもある。最後の投書の意見のように、講座でたくさんの資料を見ながら勉強する形をとらなくても、家族に教えてもらうことは覚えるのに有効だと思う。そういう部分からも中学生や高校生、大学生のＩＴ知識を活用してみてはどうだろうか。
山中委員長	世代間を繋げることは公民館の審議会でも話題になっているので、かかわりを持つという考えは大事だと思う。
白石委員	ドコモ無料携帯教室には何度も同じ内容の講座を受講している高齢者がいる。一つの講座を一回教わってもなかなか身につかない。高齢者は同じ講座を何度も受けたいといったニーズがあるので、何回も気軽に受けられるような環境になればと感じた。
山中委員長	高齢者がより学びやすくなるように模索していく必要があるのかなと思う。今の意見も、さいたま市のニーズのあり方を考えるうえで参考になると思う。

・事務局より令和４年度市民大学で実施しているオンラインの取組みについての説明を行った。

加藤（美）副委員長	ＩＣＴリテラシーや情報通信白書、そして市民大学の紹介、様々な事例やデータの紹介、そして委員長からのＩＴリテラシーのまとめからも、高齢者が一歩踏み出せないのは金銭面が負担になっているのではないか。 公民館講座でも解決できなかった部分を再編成することや民間と連携していくことも大事なのではないか。事例にあった防災や健康講座は関心が高い。関心の高いものを中心に受講者が楽しく、参加してよかったと思う講座を考えていければいいと思う。
山中委員長	それぞれのＩＣＴの活用の仕方について誘導は大変だと思うが、楽しい講座内容からきっかけを作っていただきたい。 次回は、引き続き ICT 関連事業に関する市民ニーズ等を踏まえ考えていきたい。

11　その他

次回（第５回）会議は、令和４年１０月２４日第４月曜日午後２時から、会場は生涯学習総合センター１０階多目的ホールにて開催予定であることを確認した。

12　閉会